

伊万里港港湾計画（改訂）

1. 概要

【現況】

伊万里港は佐賀県の西部、伊万里湾の湾奥部に位置し、東松浦半島や北松浦半島に囲まれ、また前面の福島などにより静穏な海域を有する天然の良港となっている。このため、古くから大陸貿易の基地として発展し、特に江戸時代の1640年代から「古伊万里」の積出港として、また、大正時代以降の石炭産業全盛期は石炭の積出港として大いに栄えた。

伊万里港は昭和26年に重要港湾に指定され、港湾整備の進捗に伴い、港勢を拡大してきた。特に、昭和40年代の木材加工業進出を契機に久原北地区を中心に木材港としての整備が進められた。同時に久原南地区や七ツ島地区において、工業用地の造成による臨海工業地帯の形成が図られ、公共岸壁が整備された。平成9年、七ツ島地区で韓国・釜山港との間に国際定期コンテナ航路が開設された。その後コンテナ取扱貨物量は年々増加の傾向にあり、佐賀県西部地域の物資流通や生活等を支える港湾となっている。

また、人工海浜等の整備も進み、市民が海と親しめる海洋性レクリエーション等の機能も有しているほか、伊万里湾大橋が平成15年に供用開始され、伊万里湾を横断する臨港道路として地域社会に大きな役割を果たしている。

【計画改訂の背景】

伊万里港は、伊万里市を中心に佐賀県で生産・消費される貨物を広く取り扱っている。また、海上輸送における船舶の大型化が進んでおり、伊万里港においても太宗貨物である木材、石炭、魚粉等を輸送する船舶が大型化している。外貿コンテナ貨物は、経済のボーダレス化が進展する中、今後もアジア地域との間で増加が見込まれる。

しかし、現在の伊万里港は岸壁の水深不足や老朽化等によるふ頭での利用効率の低下等が問題となっている。このため、新たな施設整備とともに既設ふ頭も含めて利活用の再編を図り、背後への道路を強化して港湾利用の効率性、利便性の向上を図る必要がある。

また、市民の港湾・海辺利用ニーズが多様化する中で、憩い・集う空間の形成や自然環境の保全等が求められており、環境と調和して市民に親しまれる港湾空間を創出する必要がある。

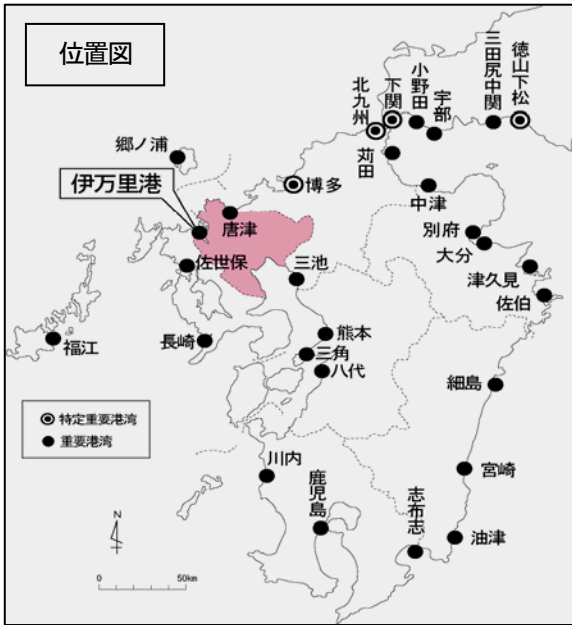
このように外貿貨物をはじめとした物流機能の充実、幹線道路へのアクセス強化、環境と共生する港湾の実現など、伊万里港への多様な要請に対応していくため、「物流需要に適切に応じて佐賀県の海上物流を支え、市民にも開かれた港湾への転換」を目指し、平成30年代前半を目標年次として、港湾計画を改訂するものである。

【港湾計画の主な方針】

- I. 船舶の大型化等に対応した物流機能の充実・強化
 - ・輸入原木、製材、魚粉及び石炭等を積載した大型船舶の入港に対応した公共ふ頭の整備を図る。
 - ・背後企業との連携強化を図り、地域産業の支援を行う。
- II. 臨港交通体系の強化、良好なアクセスの確保
 - ・港湾施設の連絡強化及び背後地域との円滑なアクセスを確保するため、臨港交通体系の強化を図る。
- III. 海に親しむことができる港湾空間の確保
 - ・市民が気軽に集い、海に親しむ場を確保する。
- IV. 自然と共生する港湾環境の形成
 - ・干潟やカブトガニなどが生息している地域を自然環境を保全する区域とし、人と自然が共生する良好な港湾の環境の形成を図る。

港湾管理者連絡先：佐賀県県土づくり本部交通政策部港湾課 太田、時（Tel 0952-25-7163 Fax 0952-25-7315）
--

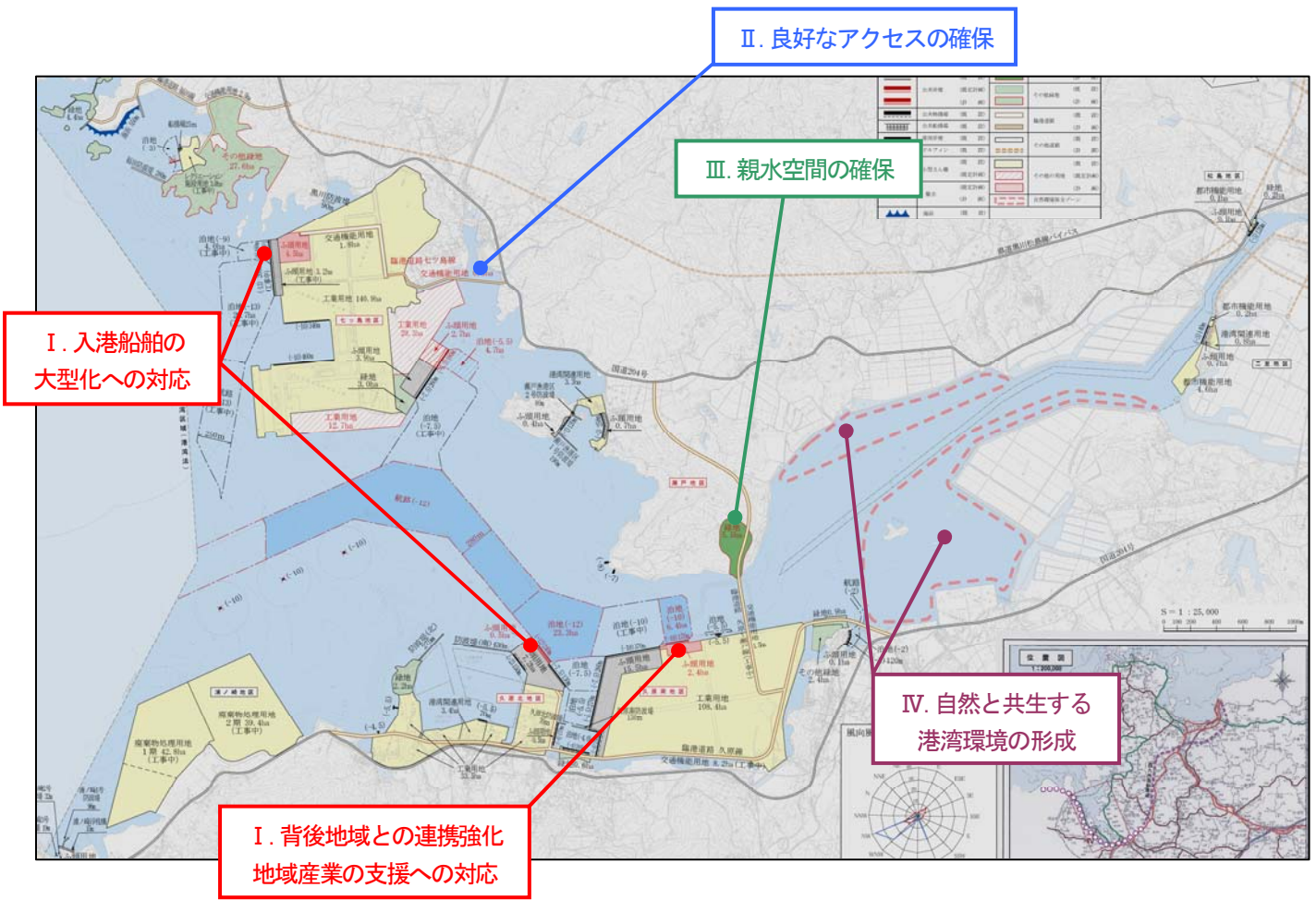
2. 伊万里港の位置



伊万里港全景

伊万里港位置図

3. 伊万里港の概要図



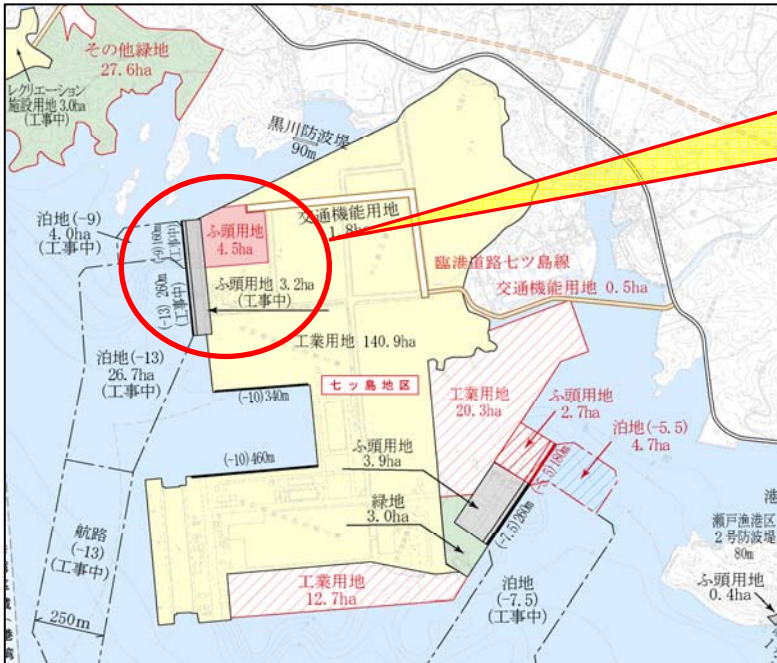
概要図

4. 計画の概要

【I. 船舶の大型化等に対応した物流機能の充実・強化】

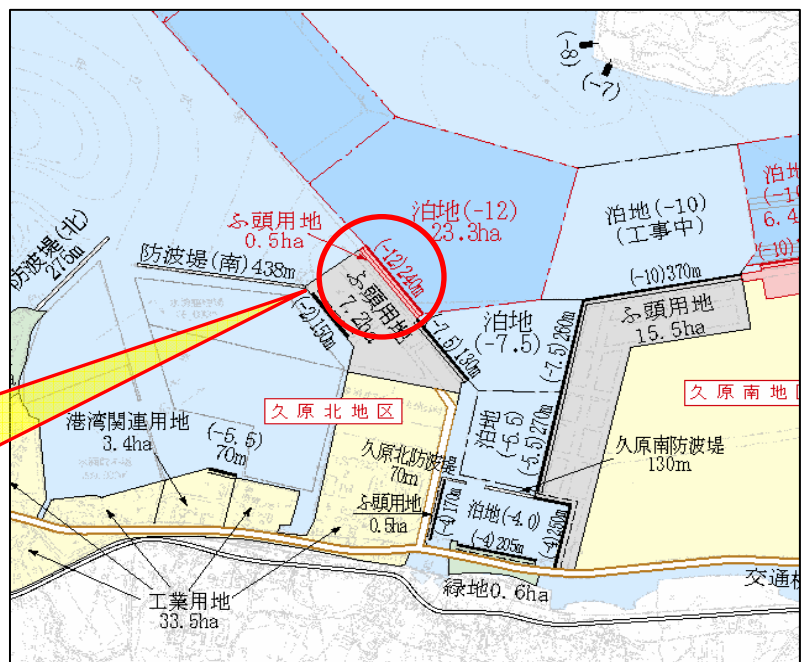
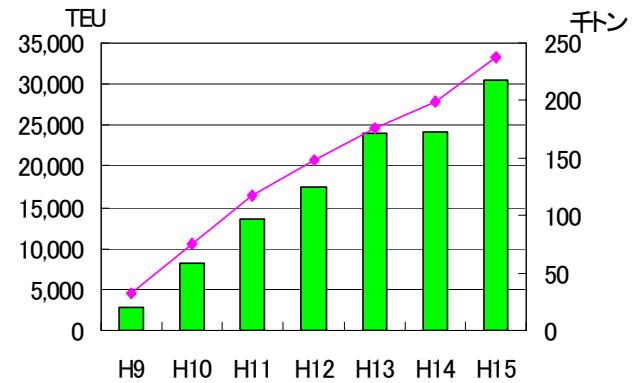
1) 入港船舶の大型化への対応

現在、伊万里港の公共岸壁の最大水深は-10mであるが、原木、製材、魚粉及び石炭を積載した2万～4万重量級の船舶に対応するため、施設の老朽化対策と併せた大型岸壁の整備を行い、物流機能の強化を図る。



七ツ島北地区では、原木及び製材の大型船や外貿コンテナへの対応を図り、これにあわせて、ふ頭用地を拡張する。

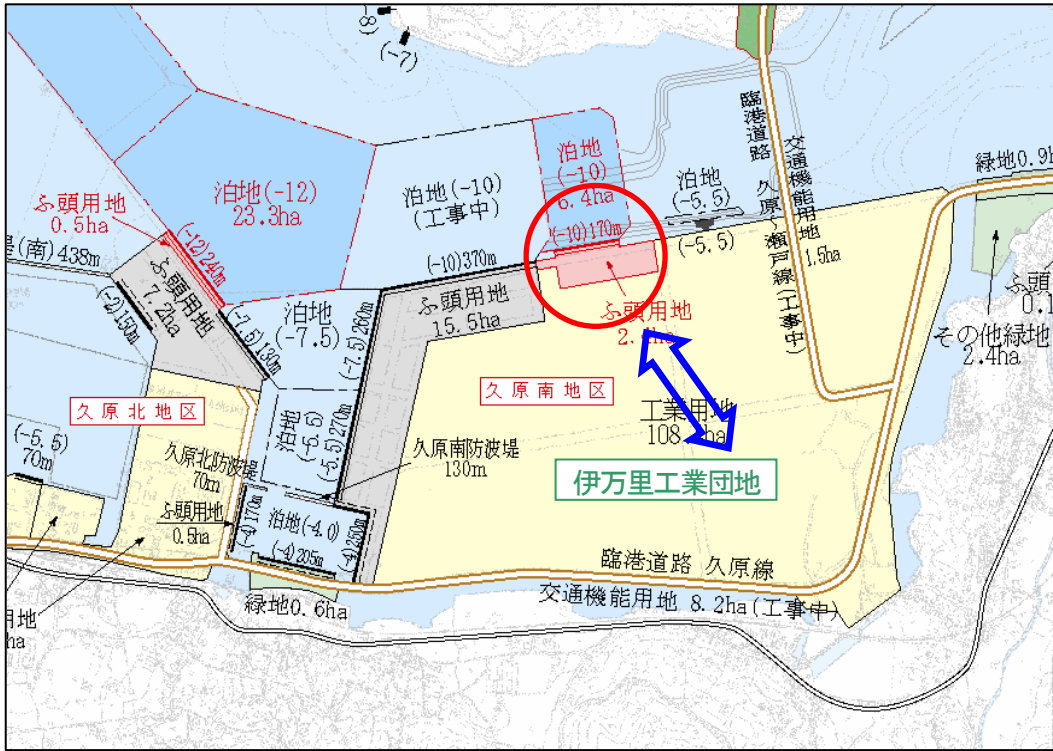
伊万里港のコンテナ貨物量



久原北地区では魚粉、石炭、砂などのバルク貨物の集約を図るとともに、既存岸壁の老朽化対策と併せ、既存の-10m岸壁を-12m岸壁に増深する。

2) 背後地域との連携強化、地域産業の支援への対応

工業団地への企業進出による貨物量の増加に対応した施設の整備を行い、立地する企業との連携強化や地域産業の支援を図る。



【Ⅱ. 臨港交通体系の強化、良好なアクセスの確保】

ふ頭間の交通混雑を改善し、市街地部の渋滞を緩和するため、臨港道路を計画し、円滑な交通を確保する。



【Ⅲ. 海に親しむことができる港湾空間の確保】

市民が気軽に集い、海に親しむ場を確保するため、伊万里湾の中央部に位置し、港内のほぼ全域を眺望できる瀬戸地区の伊万里湾大橋のたもとに、緑地を計画する。



【Ⅳ. 自然と共生する港湾環境の形成】

カブトガニの繁殖地及びツルの飛来地として知られる伊万里港の良好な自然環境の保全に努める必要があるため、干潟やカブトガニなどが生息している地域を自然環境を保全する区域とし、人と自然が共生する良好な港湾の環境の形成を図る。

